水明インターネット句会（選句・選評）　令和六年一月

1	風子 亨 風舎 きいち ありぎりす 稀香 寒立馬	木の椅子に残る落書冬ぬくし	檜鼻ことは
		昔の小学校の木だけの椅子を思い起こさせました。誰か書いたのかわからない落書き。それもまたよし。お子さんの進学か就職が決まったのか。お子さんの椅子に残る落書を見た、子の成長を喜ぶ、親としての嬉しさ、誇らしさが伝わってくる。木の椅子は暖かい、懐かしさが滲む句。木の椅子の落書きに季語冬ぬくしの斡旋が上手い。木の椅子に仄々とした暖かさを感じる。	
2		ひと塊も墜とさじ鬱ぐ雪達磨	永沢凍夜
3		意味よりもふし覚えたる歌かるた	森佳月
4		元旦の地震や遠き昭和の世	能登航
5	幹子	悠久の大河の流れ去年今年	西村青夏
		未来永劫続くであろう豊かな自然を願う大きな句に魅了されました。	
6		もろもろの奇跡の出会ふ初日の出	新井のり子
		納得の一句である。新年早々能登半島地震があった。毎日悲惨な現状が放映されている。この句のとうり何事も無きが幸せであり同感です。	
7	ノルン 風舎 たか子	何事も無きが幸せ大晦日	ありぎりす
8	土璃	鷽替や昔・空・青かった	網野月を
9		倒・焼・崩朝市通り雪積もる	河野凡士
10	ノルン 光雲2 きいち	お洒落して恥ぢらふ君が初鏡	伯男
		初々しい君の姿が眼にうかびます。初々しさに季語初鏡が良く合う。	
11	子 史 月を 航 六弦	洗ひ髪乾く間もなき除夜の鐘	ゆりあ
		大晦日の母の姿を思い出す。年の瀬の風情でしょうか。忙しかった大晦日の女性の有様が目に浮かびます。あっという間の除夜の鐘、わかります。	
12		男手の気まぐれさっと藷の粥	高原ひろし
13		へんの子の呟き　ざわわ　さとうきび	屋久鹿女
14		大鍋の竈で炊いた小豆粥	しーしー
15		冬菫太陽のごと笑ふ人	山本亨

水明インターネット句会（選句・選評）　令和六年一月

16	凡士 航 幹子 怒忘 みづる 鶴城	寝て喰うて正月帰省の子の無口 わが息子もそうだったなあ！　帰省した子は安らいでいる。新春にふさわしく、現役の若者達は皆お仕事でお疲れです。ゆっくり出来る実家で日頃の疲れを癒している姿、それを見守る親の姿が浮かびます。それでもお子さんは帰省されることと、こうした姿のお子さんを見つめているまなざしに、親子の関係性の奥行を感じます。大した話もせず黙々と手料理を食べ、自室で寝てばかり…それでも開放感にひたりリラックスしている我が子を見ているだけで満足。	荒一葉
17		冬菊や妣の墓に添ふ水子像	小林土璃
18		竹馬や紅顔早やも老眼に	青木鶴城
19		山眠る日光浴の湯治客	反町修
20	しんい 伯男 ゆりあ 朝香 寒立馬 かげろう	糸綴ぢの句帳におろす筆始 年初の緊張感。静かな、きりっとした姿が浮かびます。句全体に品性を感じます。俳句を嗜む人にふさわしい新年の句です。俳句暦が長い方で手慣れた句と思われる、リズムが良い。ちょっと贅沢な句帳を新調した喜びが見えるよう。	丸山マスミ
21	修	出囃子の淑気満つるや演芸場 正月の演芸場の雰囲気を活写。	俳爺
22		宝船夢の船長義手義眼	森下山菜
23	光雲2	左義長を覗き見る子の目に炎 見る子の目に炎の表現がいいですね。	みづる
24		緊急地震速報のおと　初夢を破りけり	秋谷風舎
25	伯男 ゆりあ	日の差せる庭木にふくら雀どち 寒気防ぐ雀達のほのぼのさ感じます。心が和みます。	しんい
26	土璃 暦文	冬鴎千切れし陸奥の風の中 寒々とした陸奥の空に舞うはぐれ鴎。	光雲2
27	修 風子 青夏	切腹の利休の無念寒つばき 茶室の寒椿の一輪挿しは利休の無念の化身か。茶室と利休の死と寒椿が戦国文化人の苛酷な運命を彷彿させる。「寒つばき」がよく効いている。	新暦文
28	暦文	見ゆる野の深閑として雪月夜 静まり返った雪景色を照らす月	後藤允孝
29		スノボーの寒晴めざしせり上る	後記朝香
30		わが姓は干支の龍なり年新た	龍野ひろし

水明インターネット句会（選句・選評）　令和六年一月

31		寒紅梅出かける朝の良き予感	佐藤幹子
32	ひろし 亨 六弦 鶴城	膨らみが今宵のぬくさ蒲団干す 夜温かく寝るために昼の太陽の恵みを十分に頂く幸せが表されている。この時期は同感です。ふかふかの布団が楽しみ。	寒立馬
33	しんい	元朝や出汁に味足す匙加減 塩梅よろしくお雑煮でしょうか。	本橋稀香
34	爺 俳 山菜 史子	戎笹しあはせたんともらひけり いただいて喜び満ちる作者の心情がみてとれた。えびす笹の十日戎は東国では知らず西国では最も人出の多い行事。この季語に柔らかなひらがなを配して、幸せ気分を盛り込んだ。「しあわせたんと」、がいい。	立野音思
35	璃 土 文 暦 佳月 しーしー 凡士	蒼天にクレーン伸びきり松明ける 災害復旧工事のクレーンか？さあ今年もという気分がいっぱいです。工事ビルのクてっぺんのレーンでしょう。正月の空を突き上げる力強い景がみえる。	霜里
36	伯男	信濃路の山々眠り星冴ゆる シーンとした中の星のきらめきの美しさが目に。	倉田詩子
37	孝 允 佳月 しーしー	薄氷の陽を乗せ風に流さるる 春先の少し寒さが戻った時の光景ですが「風に流さるる」が良いですね。陽を乗せが良いですね。氷と陽の対比がいい。	岡本たか子
38	たか子 絵夢	枝葉焚き芋焼き妻とひとずつ 子供の頃を思い出す。祖父が庭で良く焼いてくれた。今でも焼き芋が大好物である。芋を渡す仕草が浮かび、夫婦の情愛を感じる。	和田イチ子
39		冬青空飛行機雲の白き帯	かげろう
40		故郷の祖母にバナナと寒卵	渋谷きいち
41		セザンヌの絵葉書届き寒見舞	染谷風子
42	ひろし	眠さうな顔が並ぶや初仕事	ノルン
43		餅間にフライドチキンを買いにゆく	齋藤方南
44	ひろし	松の内ご機嫌よろし伊勢の神	絵夢
45		何もかもゆるゆる流る歌会始め	木村小麦

水明インターネット句会（選句・選評）　令和六年一月

46		クリスマス一夜の贅や母許されよ	山本就永
47		初詣梯子するほど気の迷い	持永喜夫
48		初日待つ大気いっぱい吸ひながら	石関六弦
49		冬の鳥高音域で魚探し	石川順一
50		寒雷や錨に殖ゆる海豚の戯	永沢凍夜
51		妻逝きてひとり見つめる初御空	森佳月
52		パジェンヌを気取り落葉舞ふ中を	檜鼻ことは
53		冬桜咲けば何やら人恋し	西村青夏
54	ことは 稀香	東京の空近づくや初景色 晴れ晴れとした青空が目に浮かびます。正月は澄んだ空が東京でも見られるという感動を空が近づくと表現されている。	新井のり子
55	一葉 風舎 マスミ	三日はやタ餉に作るおろし蕎麦 初詣の石段に齢を感じた人は多いはず。おせち料理に飽きたご主人が、おろし蕎麦を作って家族にふるまったのか。作者の優しい気持ちが伝わってくる。三日目になると、贅沢なことにお節料理にも飽きて来る。さっぱりしたおろし蕎麦の美味しいこと。もしかして作者は越前のお方？	能登航
56		喰積やバターライスをこそこそと	網野月を
57	允孝 月を 寒立馬 青夏 かげろう	日だまりに鳩のふくらむ寒さかな 境内の鳩の群れを想像しています。皆で寒さを凌いでいるような感じですね。ふくら雀の鳩ヴァージョンです。日溜りにいるが寒い日の情景が鮮やか。いかにも寒そうだね。鳩の様子の描写が寒さを連想させて上手い。	河野凡士
58	一葉 たか子 修 絵夢	石段によわいを測る初詣 お節料理への飽きが三日の蕎麦という滑稽さ。毎年この石段を登る。今年は特に体力の衰えを感じる。人生の悲哀を大変うまく表現している。発想がおもしろい、なお「よわい」の旧かなは「よはひ」。年齢を重ね初詣がいつまでできるのか。その気持ちを表現。	ありぎりす
59		どの頬もひたすら燃えてポインセチア	ゆりあ
60		風花に触れたく橋を一巡す	高原ひろし

水明インターネット句会（選句・選評）　令和六年一月

61	山菜 みづる	玉手箱ふたりして開け去年今年	偕老同穴ってやつですな。お連れはご勘弁ていうかもね。玉手箱、美しく可愛らしく詰められたお節の重か、それとも過ぎし日の思い出の詰まった小箱か？ふたりで開けて笑みを交わしている。
62	亨	飛び石の上に残した今朝の雪	
63		窓際のシャコバサボテン馥郁と	
64		うさぎ跳ぶ調宮かな　初詣	わかるわかる。みんなそうだったのでは？源氏物語の中の、光源氏（愛しい方）への雪合戦、ありそうですね。当たったら、こっち向いて！。「標的」と「お方」のギャップが良いです。楽しそう。
65	俳爺 喜夫 しーしー 六弦	標的は愛しきお方雪合戦	
66	航	日暮れても蜜柑山の明るさが残るという微妙な感じが良い。	日暮れても蜜柑山の明るさが残るという微妙な感じが良い。
67	マスミ	冬耕の深さ自慢や四つ目鍬	寒さ厳しい冬の農作業。深く土を掘り起こし太陽や風に当てると春の作物の成長に良いとか。せめて深さを競い合って元気をつけねば。
68	ことは 史子 ありぎりす	普段着の巫女と相席京雑煮	美味しい京雑煮だったことでしょう。これも、今どきの京都の正月。白味噌の京雑煮と普段着の巫女との組み合わせ。特別の味わいですね。
69		実のごとく烏の群るる枯木立	
70	佳月 稀香 風子	初句会わづかに毒の粉を撒く	普段の句会では毒舌を撒く人もさすがに初句会では控え目であったのでしょう俳諧味があります。
71	しんい	北陸の遥けき春や合掌す	共感致しました。
72	孝 ゆりあ 朝 幹子	若水の湯気立ちあがる茶会かな	若水からとった茶会ですか。私も頂戴したかったですね。新年の映像が立ちあがる句ですね。新年の厳かさや喜びが伝わってくる句です。新春にふさわしく、身が引き締まる静かさの中に、華やいだ雰囲気も感じとれました。人畜無害の俳句は面白さなし。毒があってこその文学である。
73		久闊を叙するしやぶしやぶ寒の鰤	
74		黒髪の化身妖しき寒牡丹	
75	マスミ 絵夢	極寒の海水失せし漁港かな	元旦早々の能登半島地震。時の経過に連れて被害の大きさが判明して来て何とも痛ましい。海底の隆起で港が機能しなくなった所もあるとか。被害者の皆様の立ち直りをお祈りします。地震で隆起した驚きを淡々と詠んでいる。

伯男	61
しーしー	62
山本亨	63
屋久鹿女	64
青木鶴城	65
小林土璃	66
荒一葉	67
丸山マスミ	68
反町修	69
森下山菜	70
みづる	71
俳爺	72
しんい	73
光雲2	74
秋谷風舎	75

水明インターネット句会（選句・選評）　令和六年一月

76	一葉 喜夫 きいち ありぎりす 朝香 鶴城	ドリップの最後の一滴を待つゆとりが季語「日脚伸ぶ」で生かされた。知らないうちに落ちる速度がゆっくりとなる状況を日脚伸ぶに例えてドリップを入れる遊休の時間が描かれていて素晴らしい。最後のしづくと季語日脚伸ぶがピタリ。上五と中七の措辞が季語のゆっくりと進む喜びに合っている。 **ドリップの最後のしづく日脚伸ぶ**	後藤允孝
77	凡士	おしどりのように仲睦まじく歳を重ねられ幸せですね。 **鴛鴦の番いまぶしく八十路かな**	後記朝香
78	山菜 青夏 かげろう	絵と音楽と俳句の融合ですな。総合芸術！「音符」が面白い。電線を５線譜に見立てた隠喩がよい。 **電線に音符奏でる寒雀**	新　暦文
79		**冬日背に夫に付き添う通院日**	佐藤幹子
80	ノルン	**客来たるジジが手料理新年会**	寒立馬
81		**壁から壁へ制御不能のスケーター**	龍野ひろし
82	俳爺	中七の措辞に脱帽！ **堂塔は雪の装束法隆寺**	立野音思
83	月を	孤独の中にある自由を表現しています。 **千両の実の落ちる音をひとり聞く**	霜里
84		**飽食のあとの松過ぎ粥の湯気**	本橋稀香
85		**水琴窟みたび聞きけり春近し**	岡本たか子
86	怒忘	雪が多くとても寒い冬の朝に、身体を温める根菜がたくさん入った味噌汁を作る、食べるにつまった物語を感じます。 **積もる雪根菜多し朝の汁**	和田イチ子
87	光雲2	中七下五のフレーズがすばらしい。 **蝋梅やあしたの光に香り立つ**	倉田詩子
88	みづる	氷柱が垂れる厳寒の外と、それが解け出す湯殿の温かさの対比、一日無事に終えた安堵と感謝が感じられる。 **湯の窓の氷柱とけだす仕舞風呂**	渋谷きいち
89		**悴けるや利かぬスマホを睨みけり**	かげろう
90	喜夫	賀状返礼、実状は返礼さへ出来ない状況でしょうがハガキ一枚が生きてる証拠、みんな頑張れですね！ **被災地の生存証明年賀状**	ノルン

水明インターネット句会（選句・選評）　令和六年一月

91		臘梅を示す手先の白さかな	齋藤方南
92	ことは	静かな暮らしぶりに共感を覚えます。 手のひらにメモる年号春を待つ	染谷風子
93	怒忘	情景が浮かび上がりました。 吾をせかすマリオの図案毛糸編む	木村小麦
94		川面より大阪めぐり鴨となり	絵夢
95		初明り坂東の裾なぞりつつ	石関六弦
96		早梅や水路の透明さに瞠り	石川順一
97		初鳩や贅沢覚え飛びもせず	持永喜夫
98			
99			
100			
101			
102			
103			
104			
105			